

映画で考える 多様性と共生 / 第2回

『映画 聲の形』授業ガイド

いじめと、向き合うこと —— 『伝えたい』を、あきらめない。』

教員用・指導資料（対象：中学生以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	いじめと、向き合うこと（した側・された側・見ていた側／伝えることの難しさ）
教材映画	『映画 聲の形』（2016年・日本／監督：山田尚子／脚本：吉田玲子／原作：大今良時／制作：京都アニメーション）
対象	中学生以上。映倫Gだが、いじめの場面、自ら命を絶とうとする場面を含む（下記参照）
時間	標準100分（50分×2）。上映129分。厳選クリップ・あらすじ紹介を組み合わせる
中心概念	いじめの構造（した側・された側・見ていた側）／手話・筆談などの伝え方／「×印」の映像表現／関わり直すこと
ねらい	いじめをクラス全体の問題としてとらえ、ちがいのある相手と「伝え合う」ための工夫を考える
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／相談窓口の案内（下記参照）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ いじめ・自殺企図の場面の扱い（最重要）

本作には、いじめの場面や、登場人物が自ら命を絶とうとする場面が含まれます。生徒の心理的負担に十分配慮してください。

- 自ら命を絶とうとする場面は上映しない、または事前に予告し、見ない選択肢を用意する。
- 授業の最初と最後に相談窓口を伝える（例：24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310、スクールカウンセラー）。
- クラスで実際に起きたいじめを題材にしない。「犯人探し」や体験の発表の強制をしない。
- 聴覚障害のある生徒がいる場合は、字幕付きでの視聴など情報保障に配慮する。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 作品の見どころ（予備知識）

伝え方の多様さ

作品には手話、筆談、補聴器など、さまざまなコミュニケーションの方法が登場します。手話は、手や表情を使って話す、独自の文法を持つ言語です。一方で、耳が聞こえる登場人物たちも、本当の気持ちをうまく伝えられずにいます。「伝えることの難しさ」は障害の有無だけの問題ではない、という視点が大切です。

「×印」の表現

高校生の将也には、周りの人の顔に「×（バツ印）」がついて見えます。人と目を合わせられず、心を閉ざしていることを表すアニメーションならではの表現で、人と関わり直すたびに一つずつはがれていきます。

💡 公開10周年の再上映

2026年10月30日から、公開10周年を記念した再上映が行われる予定です（上映館は公式情報でご確認ください）。公開当時は、全国の劇場で日本語字幕付きの上映も行われました。授業で扱うきっかけとして紹介できます。

いじめを考える4つの立場（板書用）（板書用）

① した側

過去は消せない。それでも向き合う道を選ぶ。

② された側

自分がいるせいで、と思いこんでしまうことがある。

③ 見ていた側

止めなかったこと、加わったことの意味。

④ 関わり直す

許すかどうかは相手が決める。関わる努力はできる。

🎯 この授業の到達目標

いじめを「した側・された側・見ていた側」の立場から考え、ちがいのある相手と伝え合うための工夫を具体的に挙げられる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	相談窓口を案内したうえで、「気持ちが伝わらなかった経験」を個人で思い出す（発表なし）。
10-20分	作品紹介	あらすじ、手話・筆談、「×印」の表現を紹介。
20-48分	映画を観る①	小学校時代の場面（厳選・短く）、高校生の将也が手話で話しかける場面。
50-72分	映画を観る②	「×印」がはがれていく場面など（重い場面は避ける）。
72-90分	ワーク記入	4つの立場からいじめを考え、伝え合う工夫を書く。
90-100分	共有・まとめ	板書「『伝えたい』を、あきらめない。」で締め、相談窓口をもう一度伝える。

🌱 まとめ

いじめは、「した側」「された側」「見ていた側」みんなの心に長く残ります。過去は消せませんが、向き合うことはできます。そして、気持ちを伝えることの難しさは、障害があるかどうかだけの問題ではありません。「伝えたい」をあきらめない関係を、クラスの中でどう育てるかを考えてください。

5 映画の背景知識

題名	映画 聲の形（英題 A Silent Voice）
製作年・国	2016年・日本。上映129分。映倫：G
監督・脚本	監督：山田尚子／脚本：吉田玲子／制作：京都アニメーション
原作	大今良時の漫画（『週刊少年マガジン』連載）
受賞	第40回日本アカデミー賞 優秀アニメーション作品賞、文化庁メディア芸術祭 アニメーション部門優秀賞など

主なキャストと役柄

- 入野自由（石田将也役）：いじめをした過去と向き合う少年。小学生時代は松岡茉優。
- 早見紗織（西宮硝子役）：耳の聞こえない少女。いつも笑顔で「ごめんなさい」と言ってしまう。
- 悠木碧（西宮結弦役）：硝子を守ろうとする妹。

🔊 字幕付き上映と手話

公開2週目には、全国の劇場で日本語字幕付きの上映が1日1回行われました。先行上映会では、映画本編に手話通訳が付けられたこともありました。「情報保障」の具体例として紹介できます。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 将也は、なぜ硝子をいじめてしまったのだろう？ クラスの雰囲気はどうだった？

→ 個人の問題だけでなく、周りが止めなかった・加わった空気に目を向けさせる。

Q. 「見ていただけ」の人には、責任はあるのだろうか？

→ 責めるのではなく、「見ていた側」にできることを考える方向へ導く。

Q. 耳が聞こえる登場人物たちも、気持ちを伝えられなかったのはなぜ？

→ 伝えることの難しさが障害の有無だけの問題ではないことに気づかせる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- いじめを複数の立場から考えられているか。
- 伝え合うための工夫（手話・筆談・態度など）を具体的に挙げられているか。
- 自分や他者を責める内容に偏らず、これからの行動につなげて書けているか。
- 書いた内容から気になる様子が見られた場合は、個別に声をかけ、必要に応じて相談につなぐ。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	ワンダー 君は太陽	見た目のちがいと友だち	小学校高学年～
2	映画 聲の形	いじめと、向き合うこと	中学生～
3	ズートピア	偏見とステレオタイプ	小学生～
4	ドリーム	人種と性別の壁を越える	小学校高学年～
5	最強のふたり	障害と介助、対等な関係	中学生～
6	グリーンブック	差別と旅、友情	中学生～
7	リトル・ダンサー	「らしさ」の思い込み	小学校高学年～
8	パディントン	よそ者を受け入れる社会	小学生～

8 参考資料（主な出典）

映画 聲の形 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

映画.com ニュース 「【公開10周年】京アニ制作『映画 聲の形』」 <https://eiga.com/news/20260920/16>

Wikipedia 「映画 聲の形」 https://ja.wikipedia.org/wiki/映画_聲の形

作品：映画『映画 聲の形』（2016年、監督山田尚子）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。